

藤井寺市障害福祉計画（第7期）、障害児福祉計画（第3期）
当事者団体アンケート結果まとめ

実施概要

実施方法：書面による回答

回答期間：令和5年8月9日～令和5年9月13日

対 象：福祉会館団体登録のある障害児者当事者団体

案 内 数：8団体

案内方法：8月9日 郵送にて回答依頼を送付。
9月1日 郵送にて御礼状兼回答依頼を送付。

回 答 数：5団体（回答率：63%）

総 評：全体的にみると、以前より長く続いている団体としては、高齢化の進行や若年層の加入が少ないこと等が挙げられており、前回計画策定時のアンケート調査とほぼ同様の内容がみられる。比較的新しい団体についても、会員不足について挙げられている部分もあるが、今後の活動方針や取り組み方に関する問題を中心とした内容が主にみられる。

<主な活動又は事業、取り組み>

- 毎月第4木曜日PM1：30～4：00藤井寺市立福祉会館にて（8月、12月は除く）（毎年5月は、定期総会につきAM11：00～PM2：00、11月は会館外で親睦会）家族の集いを開いて、会員の経験交流と支えあいを深め、新しい参加者さんのお話を中心に傾聴共感し情報を共有している。藤井寺保健所での教室に参加し、会のアピールをしている。会長が府団体の理事となり、精神保健福祉講座や電話相談員として参加し、府団体としての活動に協力している。大阪府こころの健康総合センターや精神保健ボランティア講座の講師として参加し、府団体、地域の会の方たちが孤立しないようお手伝いしている。
- 発達障害およびその傾向にある子どもを持つ親で構成する会である。親のレスパイトケアにつながる活動を中心に活動する。月1回情報交換や親睦を深める目的で座談会を開催している。年に何回か親子交流イベントや親のストレスを緩和するためのイベントを、外部講師を招いて行っている（親子でリトミック・ヨガ企画など）。今後、発達障害に関する勉強会も行いたいと考えている。
- それぞれが高齢者になり、何も取り組みしていません。年に1回バス（市の）で近くへ日帰りしています。
- 定期総会、役員会、運営委員会、施設見学、研修会。
- 定期的に役員会を開催し、障害福祉制度の学習や家族の状況、作業所の状況等の交流をすすめている。

<活動又は事業を行う上での課題や問題点>

- 府団体全体、地域の会員や当事者の高齢化がすすみ、コロナ禍の影響もあり、会としての活動、集まりが年々少なくなっている。保健所での相談も活動もコロナ優先になり、相談員の数や時間も少なく困っている家族の手助けが充分でなくなっている。大阪市内のように教室（保健所における）も年2回あるかなしかではなく、活発に開催してほしい。昨今医療中断、服薬中断などで高齢の親が困っている事も少なくない。
- 講習会やイベントなどを開催したいが、財源がないため、実現が難しいことがある。助成金などあれば嬉しい。完全なボランティア活動であるため、主催者側の負担が大きい。参加者から手伝ってくれる人が今後出てこないと継続運営していくことは難しい気がする。会員を増やしていくためのアプローチがまだできておらず、そこをどうしていくかが課題である。
- 手足が不自由。手話が不必要なので普段通用していませんので、心使いが大変です。私もそう思いました。
- 数年前より、学齢期の方の入会が全くありません。情報はネットで検索すれば、何でも知り得るからでしょうか。役に付きたくない、行事に参加するのが面倒等の理由も聞こえてきます。できるだけ、参加しやすい内容のものを考えていきたいと思えます。
- 会員の高齢化。

＜会員又は障害のある方及び利用者が抱えておられる主な課題や問題点をご記入ください。＞

（例：普段の生活、働くこと、地域での活動、移動、周囲の人々、人権、各種サービスなど）

- 国や大阪府は、自立とは働くことを中心に考えていて、B型事業所→A型事業所→自立と考えておられるが、自宅に高齢の親と居場所のない当事者が各家庭毎に孤立している。就労中心の自立ではなく当事者の相談出来る所、いつも集える居場所造りを考えていただきたい。各市にひとつある地域活動支援センターも生活保護をもらって生活しているおじさん、おばさんたちの「生きてるよ！」と生存確認のような楽な居場所として利用されているのみで、今、相談や居場所が必要な当事者の集える場所にはなっていない。中身については、「委託していますからお任せです」というばかりで家族や当事者の要望に合っていない。自宅に居る当事者が多すぎる。
- 働くことに関しては、ハードルが高く、苦勞されています。私たちの団体は、子どもたちがまだ小さいので、“親が働く”ということに関してですが、療育などにも時間をとられるため、働き先を見つけることも大変だし、歳の近い兄弟がいる場合、障害児と兄弟2人とも保育所に入れないと働けないので、療育手帳取得などで本人と兄弟にも加算があれば保育所に入りやすいと思います。働きたいけど働けない人も多いので、仕事先の紹介などあれば嬉しいです。障害児を育てることは定型児を育てるよりもお金がかかります。
- ほとんど交流がありません。年1回ほどです。人権問題は感じません。
- 障害者の高齢化、二次障害等、問題は後から出てきます。また、親の高齢化も問題です。入所、G Hに入れる方は少しは安心ですが、そうでない方はずっと親が介護しなくてはなりません。事業所がG Hを建設しても、費用の問題があります。家賃補助、年金等、金額が上がれば大変ありがたいです。
- 普段の生活、余暇の過ごし方、コミュニケーション、本当に伝えたい事は何か等。

＜地域での障害者に対する支え合いや助け合いの活動を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。＞

- 民間に任せるだけではなく、当事者の一人暮らしの住居確保（府営住宅の活用）地域で親亡きあとも一人暮らしができるよう、それに必要な支援を増やしてほしい。居場所作り（当事者が集える所）、子ども食堂のような昼食、夕食を安価で提供出来る食堂、当事者が困った時相談出来る所のネットワーク作り、家族が入院とかした時の一時入居出来る当事者のショートステイ出来る施設があればよいと思う。
- まずは、障害のある人たちに関わる人たち同士でのコミュニケーションを深めていくことが必要（親同士や親と支援者または支援者同士）。上記のことがある程度できてきた上で、障害のない方々に障害のある人たちのことを少しずつ理解してもらうことが必要だと考えます。
- 障害者でなくてもお年寄りが何か物を持って階段を使う時は、手を差し伸べて欲しいです。
- 少子高齢化の時代背景の中で、障害者を特別扱いしてくれとは言いません。市民の皆さんもそれぞれに悩みがあり、問題を抱えていると思います。家庭内の問題は別にして、地域でできる事を考えた時、できるかどうかわかりませんが、こうであつたらいいなと思うことを書かせていただきます。障害者を一括りでまとめることはできません。同じ障害名でも十人十色です。障害者だろうが、高齢者だろうが、引きこもり等だろうが、日々関わっている家族の大変さを理解しても

らえたら、そして、頑張っねと言われるより、笑顔で挨拶をしてもらったり、ご苦労さんと声をかけてもらったり、ちょっとしたことですが、それがずっと心に残ります。活動としては、小中高の学校教育の中に福祉に関連することを多く取り入れ、実践して欲しいです。まず、障害のある人と接する機会を増やすことが理解につながると思います。

○当事者や家族会以外で交流の場が必要。とはいえ、まだまだ世間は自分とは関係ないと考えられているのが大半と思う。

<今後、特に望まれる福祉施策や福祉サービスがあればご記入ください。>

○精神障害者2級の人への訪問看護サービスの内容の充実。30分傾聴共感のみでは当事者や家族の役には立っていない。一人で受診出来ない時は、病院の前で待ってお手伝いします。病院まではガイドヘルパーを契約して下さい、というおかしな制度の作り方は現状には合っていない。もう少し現状を知り、家族や当事者のニーズをキャッチして、おかしな縦割りのサービスは不要。一貫した必要な使い勝手のよいやり方を取り入れるべきです。

○障害児を育てる親のためのカウンセリングサービス（親のストレスがすごくある。金銭的にも依頼すると高い。専門家に話を聞いて欲しいがどこに相談してよいかわからない）。複数のデイを利用している家庭に、担当者会議の整備をして欲しい（小学校の担任と各デイの管理者による会議）。情報共有の面と保護者の負担軽減のため。市で支援学校に通う子どもや支援学校に通う子どもを対象のイベントを実施して欲しい。たくさんの放課後デイサービスがあるが、いい加減な施設も多いので、しっかり指導して欲しい。利用者の意見を聞いて欲しい。

○役所に行くのはあまりないので、どこかポスターで手を差し伸べましょうというのはいかがですか。

○障害児と障害者で大きく差があると思う点は、平日帰宅してからの過ごし方です。市内在住で市内の事業所に通所していれば「ふれあい」を利用できますが、他事業所を利用している障害者は「ふれあい」を利用できません。日中一時をやっている事業所を探しても無いに等しいです。日中一時に対する単価が低いため、運営的な面で難しいようです。それに比べて、障害児のデイサービスは単価が高いためか、事業所が学校まで迎えに来てくれ、親が仕事に就け、遅くまで預かってくれると聞きます。単価の問題は大きいです。また、親が仕事に就けるという点は、成人の家庭でも願うところです。障害福祉年金だけでは、日々の必要経費が賸りきれません。障害福祉年金は重度の方で1か月8万1000円。軽度の方は6万8000円。個人差はありますが、高齢の家族は親は年金生活、アルバイト等でやっと何とかやっています。しかし、帰宅する時間に制限があるため、児童のような訳にはいきません。いずれにしても、同等の扱いをお願いします。

○作業所外で自由に出入りできる場所が欲しい。

<コロナ禍の影響によって、困っていることや良かったことなどがありましたらご記入ください。>

- 入院中の精神障害者は、家族と会えない不安の中、長い期間が経ち、気力が落ちている。その為色々な事情もあるが、当事者が亡くなってしまうケースが多い（自死ではなく気分が落ちてきて身体が徐々に弱り、他の身体的病気の発症もあり、発熱で点滴必要になり、嫌がるから身体拘束、夜見回ったら亡くなっていたというケースもあり）会としては、後から報告を受けるので、原因は心不全と後から報告を受けても、どうにも手のうちようがない為。会が言っていく所がないのが現状である。
- 子どもが感覚過敏があり、マスクを付けられない子だったので、変な目で見られたりがありました。コロナの影響で児童発達センターや放課後デイサービス、児発デイサービスがお休みになったこともあり、ルーティンが変わるとリズムが崩れ、乱れるタイプの子にとってはとても大変でした。
- 特になし。
- 当初、混乱の中で市も大変であっただろうと察します。ワクチン接種については会員の方から、まだ連絡がこない、と会に何度も連絡がありましたが、市の対応が早かったのもそれなりに事は済んでいます。困ったのは、障害者が感染して付き添い者がホテル等に移動した際、付き添いのホテル代は実費であることが負担になっていました。また、その逆に親が感染して、障害者をみてもらうものがない場合も預ける所がなく、大変困っていました。その場合、親は自宅で療養し、障害者を一日中家でみており、休むこともできず大変でした。何か方法はないのでしょうか（個人差はあります）。
- やむを得ず作業所が休みになり、子どもの行き場がなかった事が困った。ガイドヘルパーと出かけるが行動範囲が限られた事が困った。

<ご意見・ご要望等がありましたら自由にお書きください。>

- 家族や当事者本人の希望にあった連携のとれた支援をして欲しい。家族や当事者本人の希望にはいつでも意見をいう準備はあるが、支援サービスが先に決まっていてどうしてもニーズにはあっていない。委託費は高い金額を払っているものの、家族や当事者の求める支援ではないひきこもりも昨今増えている。統計はきかないでも発表してほしい。小学校4年生ぐらいの不登校も増えている。発達障害も増えている。連携の取れた支援を考えればニーズに合った支援、高い委託費が支援員、働く人の給料に反映されているだけで、家族や当事者の役にたっていない。お金の使い方が間違っている。委託費を払ってお任せで報告を鵜呑みにするよりでは、良い支援とはなっていないと思う。
- 受給者証の更新の時に、期限ギリギリにしか新しい受給者証がこないのももう少し早くしてほしいです。
- 困っているようだ、人々が手を差し伸べて欲しい。
- 移動支援について、利用の仕方でも自宅から自宅という規定があることは理解しています。しかし、GHに入居してからは、市が「GHからGH」という契約を事業所と交わしているため、例えばお盆休みや正月休みに利用する際もわざわざGHまで送り、迎えに行かなくてはなりません。長期

休みのたびに利用するとは限りませんが、融通性のある利用方法をお願いします。

災害時について、障害の程度によっては、大勢の集まる場所でジッとしていられない、奇声を上げる、パニックになる等、周りの方に迷惑をかけてしまうことは明らかなです。それを回避するために別の部屋（教室等）を使わせていただけるよう配慮をお願いします。

循環バスについて、循環バスの要綱を見ると、公共施設のみでの利用しかできないとあります。しかし、高齢社会において買い物、通院等の足がなく困っている方も増えています。障害者から言えば、車に乗ることが好きで、一周することもあります（これは大阪市内のバスを利用した時の事です）。循環バスの要綱を見直して頂くか、他市にあるコミュニティバスとして、いつでもどこでも便利に利用できるバス（必要ならば安く利用料金を取っても良いのでは）を配置してください。メイン道路の歩道について、ご存じかと思いますが、バス通りの歩道の多くは車椅子、バギー、杖等をつけて歩けません。誰でも移動がしやすい歩道の設置を早急をお願いします。

○特になし。